

母が遺したレシピに導かれ、 母の人生を旅する、 49日間の感動の物語。

遺言は、「四十九日の大宴会」でした――。

誰の人生にも必ず訪れる、大切な人との永遠の別れ。けれども、熱田家の母・乙美は、あまりにも突然逝ってしまっただけでなく、夫の良平（石橋蓮司）は何ひとつ感謝を伝えられず、悩める娘百合子（永作博美）は女として今こそ聞きたいことがあったのに、母はもう居ない。

そんな折、熱田家に派手な服装の少女イモ（二階堂ふみ）と、日系ブラジル人の青年ハル（岡田将生）が現れる。生前の乙美に頼まれ、残された家族の面倒を見に来たというイモは、乙美がとある「レシピ」を書き遺していることを伝える。それは、自分が居なくなっても、残された家族がちゃんと毎日を暮らしていけるようにと、料理や掃除など日々の家事にまつわる知恵や、健康や美容に関するアドバイスが、楽しいイラスト付きで描かれた手作りの「暮らしのレシピカード」だった。レシピに従って、少しずつ暮らしを立て直し始める父と娘は、その中の1ページに「自分の四十九日には大宴会をして欲しい」という、生前の乙美の希望を見つける。こうして、母の遺したレシピにいざなわれ、娘と父、イモ、ハルの4人での「四十九日の大宴会」までの奇妙な共同生活が始まるが――。



四十九日のレシピ



感動と笑いを巻き起こす、豪華キャストの共演――！

娘の百合子を演じるのは、「八日目の蝉」で日本アカデミー賞助演女優賞他、映画各賞を総ナメにし、その確かな演技力と透明感あふれる美しさで、日本を代表する女優となった永作博美。頑固で口下手で不器用だけれど気持ちは熱い父の良平には石橋蓮司。岡田将生と二階堂ふみが不思議な魅力に溢れる個性的なキャラクターを、原田泰造が百合子の夫を演じている。伊吹有喜のロングセラー小説を、独自の感性が人気の気鋭監督タナダユキが映画化。死と真っ直ぐに向き合うことで、人生の素晴らしさ、愛おしさを描き上げる。何でもない毎日の何でもない雑事を、心をこめてこなす母のレシピは、「人生を愛するための処方箋」だった。母が家族に遺した大きな愛が、観る者をも抱きしめる感動作が、ここに誕生した。

買い物の法則レシピ

毎日の食材選びに困ったら「バトカー+信号」！
バトカーの「白」と「黒」、信号の「赤」色、「黄」色、「緑」色の食材で、
だいたいの必要な
栄養はとれちゃう！

コロッケパンのレシピ

●材料
コロッケ…1個
食パン(6枚切り)…2枚
キマパウダー…2g
ソース、マヨネーズ、カラシ…適量

キャベツは千切りにする。マヨネーズにカラシ少量を加えてよく混ぜる。オーブントースターにコロッケと食パンをならべ、こんがり焼く。パンは2枚とも片面にマヨネーズをぬり、1枚の上にキャベツを平らに広げ、コロッケをのせる。ソースをたっぷりまわしかけ、もう一枚のパンでふたをする。好みで耳を落とし、半分にカットする。

前売券 1,200円 発売予定日/6月17日～ (当日券/一般:1,500円、高校生以下:800円、悠悠映画塾会員は1,100円)

前売券販売所 ザ・ヒロサワ・シティ会館、水戸京成百貨店、ひたちなか市文化会館、デジタルチケット
【前売券予約電話番号】茨城映画センター内:090-2641-3156
(土・日・祝日を除く 午前10:00～午後5:00)

チラシ持参で一般当日券 1,300円に割引

※デジタルチケットは
右記の二次元コード
より購入できます。



PassMarket